

723
MS No

溪江入楚

繪卷

17

Handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is extremely faint and illegible.

1871

Blank page with faint, illegible markings.

繪合

廿九歳

前兼左侍入内事繪合之入内此と云ふ事一つ不承され在
左兼右近衛而因念下しつら入内事との事多々此と繪
合と云ふ事一つ六月十兼目とし之入内事一つ一と云
ふ事一つ一と云ふ事一つ此の事九歳といふ事一つ一と云ふ事
二十兼

二十兼

内大臣

前兼左侍入内乃夏

梅子女所也

後号社女中云

兼崔院道判根菅葉衣音等繪合

自上好繪合

原氏天奉繪於内事

三月十兼日梅兼女侍与弘徽殿女侍繪合之夏

左女房平典侍

侍内侍侍

少将平女

右女房典侍

中侍左女

兼左女

兼崔院女侍繪於梅兼後

又於内前之繪合

内侍左女西庇為其亦撰天臣分合之例

源氏清繪巻ノ一巻出来何方掃夏
源氏文師文師物掃夏
物合本原也清極夏
山更三清雲行夏 暖版清雲

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

後合

凡小刻為巻名云

私刻也繪合とてとてうう何いあはるる右八小繪ふしふ何り又
竹名のがみうふれううけを合くあううふりう何り
何 新母又女清文以徽原女清後合く真を号うたり
と 後於也集の印也正門款也 新後身之曾母也後合之事也
私合也根合也といふううん 新合とせり或清記後合二反を
内くと又あううとて正法の方合也なりなりなりなりなりなりなり
冷泉院を封う小比しうううう 以繪合源氏三平集三月のり
と 源氏三平集の時乃りし繪合三月乃比のりし北九集れりし
ゆ經よあるんううとてわ
其 けまう源氏三平集身をけりしとてまそのううう

あこれおろせまうしうい
あかりいりうりうりし
まふれい息ふのりし
原のむちり

或本りうりうりし
或本りうりうりし

いしーのれをいゆ
是もい息ふのりし
原のむちり

うういむせとむせにいむせし
概ふさふのそいし

さーさあーわ
来世のい息ふのりし
原のむちり

中へまといゆ
来世のい息ふのりし
原のむちり

ういりうりし
来世のい息ふのりし
原のむちり

ふししうりうりし
来世のい息ふのりし
原のむちり

ふんれとあまいりうりし
来世のい息ふのりし
原のむちり

うーてうりうりし
来世のい息ふのりし
原のむちり

いしー夜ふもさうゆりのあり
来世のい息ふのりし
原のむちり

いしーまーまにかふりうりし
来世のい息ふのりし
原のむちり

いしーやうり
来世のい息ふのりし
原のむちり

いしーやうり
来世のい息ふのりし
原のむちり

いしーやうり
来世のい息ふのりし
原のむちり

いしーやうり
来世のい息ふのりし
原のむちり

いしーやうり
来世のい息ふのりし
原のむちり

いしーやうり
来世のい息ふのりし
原のむちり

いしーやうり
来世のい息ふのりし
原のむちり

いしーやうり
来世のい息ふのりし
原のむちり

いしーやうり
来世のい息ふのりし
原のむちり

いしーやうり
来世のい息ふのりし
原のむちり

いしーやうり
来世のい息ふのりし
原のむちり

いしーやうり
来世のい息ふのりし
原のむちり

いしーやうり
来世のい息ふのりし
原のむちり

いしーやうり
来世のい息ふのりし
原のむちり

いしーやうり
来世のい息ふのりし
原のむちり

いしーやうり
来世のい息ふのりし
原のむちり

いしーやうり
来世のい息ふのりし
原のむちり

いしーやうり
来世のい息ふのりし
原のむちり

いしーやうり
来世のい息ふのりし
原のむちり

いしーやうり
来世のい息ふのりし
原のむちり

ていつの條とこの條りまうせしとさうしはひく

本草抄云是の氣味ふをせしふは、^養養の字不審と爲し
業之條奉内書條也初は之あるうりふらうてかやとくはらせ
しせれうやまう中わりのしあはるや古代の條とこれ條か
まいらせんと養しういふとさ然に養の字不審と爲し
こはよゆりまし

并ニ条也

女

女

七根分三照天本ののり急いありうく多うれとらのいこり
ら楊を妃馬鬼ふうふしれ王照天の夷狄も宿せし是其恒長也
契 行つたれあり

うういふるまうし

今方秋婦入門れうあうれしやう

此後の山日記れこ

らゆらありし日記

山家幸身安ふすと令紀至法と又後集と被時此は公例と
かゆうとさういふいふ人うめし
のうとさういふいふ人なりしと此條れふうりまて添あし
ふまうしといふいふ 君不をほうてういふとさういふは

人とは條の名をまてかしましとて此中少てんを
契云いふとさういふ人なりしとま一向ううう人なはれまはし

まういふるまうし

原宗のの中をまてこれうり

うういふるまうし

らゆらありし日記

まういふるまうし

とまてまてまてまてまてまてまてまてまてまて

ひらうあういふるまうしと此のひらういふるまうしとてまてまてまてまて

まてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまて

まてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまて

まてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまて

まてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまて

まてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまて

二橋よあ葉ふてし〜〜〜又堀川は百首より
師付のれ方〜〜〜

た方尸をふらふあはれぬ縁結の必野斗にまろ〜〜や
右陳之子目若草の〜〜とつらあい野と〜〜法ふ〜や

判をた方〜〜〜
然とひねりめ〜〜〜

万葉集に〜〜〜
望む念値者養九千女子媚を情必哀を止暎之と〜〜

那格のうに縁せつや法ふ〜〜〜
題〜〜中た方尸〜〜被集の原吹く和せる後似名付来也ゆり〜

吹くは〜〜今題傳たり〜〜
前〜〜法伴若草九千女子等中世竹字〜〜

火の〜〜〜
の記〜〜
々名字をた〜〜

〜〜〜
〜〜〜

あ〜〜
斗〜〜

私勅堀川は百首

懐旧方

師付に

〜〜〜

な〜〜

〜〜〜

ふの〜〜

〜〜〜

つ〜〜

〜〜代方〜

果〜〜

目〜〜

〜〜

ち〜〜

〜〜

〜〜〜

右〜〜

〜〜〜

ついで娘の孫とすうしやうしうしに内娘の分ふゆとてやうてう
まわりの葉とくふれふ玉の枝りそきまらけんのかたはる風の
はやく承れんと人のうらうてあゝあゝとてせうとてけらりりれ
みこいあといはうらうて玉の枝りたあうしとすうしやうし
あやまらうしたた　これらあやまらうて玉の枝りたあうしとすうしやうし

為其子則可為貴之同時人
巨勢相覧者金岡之子也金岡寛平時人

巨勢相覧 一説巨勢金岡相覧同人之也但如右若殿者相覧教先代人金岡
仁明天皇時之人美和四年九月五日畫序不詳

金園子 私印 降月成文抄撰成少同従八位下巨勢朝臣相見
昌泰二ノ二月降日執筆時平云

紀黄之 道凡共 徒書也 見非字直本
即文

私云むとといふまもとあとのうらうてあゝあゝとてせうとてけらりりれ
付くく度ふむにむらうとていしやうしやうし

下に琴とひきてあそびやうてあゝあゝとてせうとてけらりりれ
らあそびやうとてあそびやうとてせうとてけらりりれ

十二之月の時遣唐使はあゝあゝとてせうとてけらりりれ
の修羅琴と送らうとていしやうしやうし

人の御門 果園のうらうしやうし

きちり玉れらう 弄 太い方人太とあゝあゝとて

弄 道風也喜朱雀時代人也景公才八厚凡共のうらうしやうし

下系張奉中孫太宰大貳葛弦男

弄 右掃

私云方うういふの後み難とていしやうし

たよのそれしやうし

私云方うういふの後み難とていしやうし

河海に委棄せしむるは梅とてさうとさるるされしをこれにあらはして
折つるふれ枝を沈の宮にあらはれしをさうとさるるあらはして
後の宮の公葉もは皆同し事

私史に沈してあり也

沈の殿上よりさうとさるる梅を中ね 昔の心裏の累成りてさうとさるるを
沈の累成りてさうとさるる梅の累成りてさうとさるる心裏の累成り
せむとありて人の心裏にさうとさるる梅をさうとさるる累成りてさうと
成をぬらんありてさうとさるる梅をさうとさるる

私史に沈してあり也

朱雀

又さうとさるる梅をさうとさるる梅をさうとさるる梅をさうとさるる

朱雀沈の御史に朱雀の御史に朱雀の御史に朱雀の御史に朱雀の御史に

朱雀沈の御史に朱雀の御史に朱雀の御史に朱雀の御史に朱雀の御史に
朱雀沈の御史に朱雀の御史に朱雀の御史に朱雀の御史に朱雀の御史に
朱雀沈の御史に朱雀の御史に朱雀の御史に朱雀の御史に朱雀の御史に
朱雀沈の御史に朱雀の御史に朱雀の御史に朱雀の御史に朱雀の御史に

らくとさるる梅をさうとさるる梅をさうとさるる梅をさうとさるる

幼れ梅をさうとさるる梅をさうとさるる梅をさうとさるる梅をさうとさるる

揚貴妃をさうとさるる梅をさうとさるる梅をさうとさるる梅をさうとさるる

取金釵細合名折其半授使者目為我謝太上天皇謹献是物

為舊好也

後史に沈してあり也

沈の殿上よりさうとさるる梅をさうとさるる梅をさうとさるる梅をさうとさるる

沈の殿上よりさうとさるる梅をさうとさるる梅をさうとさるる梅をさうとさるる

沈の殿上よりさうとさるる梅をさうとさるる梅をさうとさるる梅をさうとさるる

沈の殿上よりさうとさるる梅をさうとさるる梅をさうとさるる梅をさうとさるる

沈の殿上よりさうとさるる梅をさうとさるる梅をさうとさるる梅をさうとさるる

院のみしゆらんらん
朱雀の秋好らん此のちのち

院の山門のちかふ夜せり
後小はこははるは氏をとのやうに
る上云はるはる号か
後小云と云はるはる
いみじくは夜をい
ありしをさうくさ

朱雀の秋好らん此のちのち
院の山門のちかふ夜せり
後小はこははるは氏をとのやうに
る上云はるはる号か
後小云と云はるはる
いみじくは夜をい
ありしをさうくさ

朱雀の秋好らん此のちのち
院の山門のちかふ夜せり
後小はこははるは氏をとのやうに
る上云はるはる号か
後小云と云はるはる
いみじくは夜をい
ありしをさうくさ

朱雀の秋好らん此のちのち
院の山門のちかふ夜せり
後小はこははるは氏をとのやうに
る上云はるはる号か
後小云と云はるはる
いみじくは夜をい
ありしをさうくさ

傳りて中ぬる乃女房方へも傳りて

三月廿日天徳四年内裏分合西文記云其儀西廂皆懸新簾
南中四間坐の簾為左方女房坐
北二間為右方坐
殿前北者女御端三枚為公卿
殿東簾子
北相分輔長盃為侍
南北庭各女御盃三枚為示所
百人座

三月廿日天徳四年内裏分合西文記云其儀西廂皆懸新簾
南中四間坐の簾為左方女房坐
北二間為右方坐
殿前北者女御端三枚為公卿
殿東簾子
北相分輔長盃為侍
南北庭各女御盃三枚為示所
百人座

三月廿日天徳四年内裏分合西文記云其儀西廂皆懸新簾
南中四間坐の簾為左方女房坐
北二間為右方坐
殿前北者女御端三枚為公卿
殿東簾子
北相分輔長盃為侍
南北庭各女御盃三枚為示所
百人座

三月廿日天徳四年内裏分合西文記云其儀西廂皆懸新簾
南中四間坐の簾為左方女房坐
北二間為右方坐
殿前北者女御端三枚為公卿
殿東簾子
北相分輔長盃為侍
南北庭各女御盃三枚為示所
百人座

今案清涼殿西面也清記云暫撤清涼殿南殿中後幕

殿とていふは清涼殿の西なり

并

左とていふは清涼殿の西なり
右とていふは清涼殿の西なり
左とていふは清涼殿の西なり
右とていふは清涼殿の西なり

必 天徳寺舎 左方例儀宗檀藪若下机宗檀地也

方儀は宗檀の言はたてし藪若下机は宗檀地也

つとていふは宗檀の言はたてし藪若下机は宗檀地也

それい蒲藪の言はたてし藪若下机は宗檀地也

宗の儀と地なり

右とていふは清涼殿の西なり

必 天徳寺舎 左方例儀宗檀藪若下机宗檀地也

方儀は宗檀の言はたてし藪若下机は宗檀地也

つとていふは宗檀の言はたてし藪若下机は宗檀地也

それい蒲藪の言はたてし藪若下机は宗檀地也

宗の儀と地なり

右とていふは清涼殿の西なり

必 天徳寺舎 左方例儀宗檀藪若下机宗檀地也

方儀は宗檀の言はたてし藪若下机は宗檀地也

つとていふは宗檀の言はたてし藪若下机は宗檀地也

それい蒲藪の言はたてし藪若下机は宗檀地也

宗の儀と地なり

右とていふは清涼殿の西なり

必 天徳寺舎 左方例儀宗檀藪若下机宗檀地也

方儀は宗檀の言はたてし藪若下机は宗檀地也

つとていふは宗檀の言はたてし藪若下机は宗檀地也

必 天徳寺舎 左方例儀宗檀藪若下机宗檀地也

方儀は宗檀の言はたてし藪若下机は宗檀地也

つとていふは宗檀の言はたてし藪若下机は宗檀地也

それい蒲藪の言はたてし藪若下机は宗檀地也

宗の儀と地なり

以下依為は後例畧之凡流左様也

わ
かまふりたかき流跡書札采のほきもされなうらと
公のむくうりかきとて 後くすしあが学勢とうまるとそ

てしんかきとてしんかき
あつたむらうり
源氏流居の付のり

後めい陰房公のまうしゆさうしとされとそしけり
公おりのむらうりかきとてしんかきとてしんかき

されとてあつたむらうりかきとてしんかき
あつたむらうりかきとてしんかき
そしけり
のしんかきとてしんかき

かまふりたかきとてしんかき
あつたむらうりかきとてしんかき
そしけり

あつたむらうりかきとてしんかき
あつたむらうりかきとてしんかき
そしけり

あつたむらうりかきとてしんかき
あつたむらうりかきとてしんかき
そしけり

あつたむらうりかきとてしんかき
あつたむらうりかきとてしんかき
そしけり

あつたむらうりかきとてしんかき
あつたむらうりかきとてしんかき
そしけり

あつたむらうりかきとてしんかき
あつたむらうりかきとてしんかき
そしけり

あつたむらうりかきとてしんかき
あつたむらうりかきとてしんかき
そしけり

あつたむらうりかきとてしんかき
あつたむらうりかきとてしんかき
そしけり

世に... 又汝... の後... 又汝...
世に... 又汝... の後... 又汝...
世に... 又汝... の後... 又汝...

又汝... 又汝... 又汝...
又汝... 又汝... 又汝...
又汝... 又汝... 又汝...

又汝... 又汝... 又汝...
又汝... 又汝... 又汝...
又汝... 又汝... 又汝...

契

契... 契... 契...

契... 契... 契...
契... 契... 契...
契... 契... 契...

契... 契... 契...
契... 契... 契...
契... 契... 契...

契... 契... 契...
契... 契... 契...
契... 契... 契...

契... 契... 契...
契... 契... 契...
契... 契... 契...

契... 契... 契...
契... 契... 契...
契... 契... 契...

契... 契... 契...
契... 契... 契...
契... 契... 契...

契... 契... 契...
契... 契... 契...
契... 契... 契...

契... 契... 契...
契... 契... 契...
契... 契... 契...

杜詩曰自謂願提書立登要路津致君堯舜上平使風俗俗淳
け意蕭條 行款隱倫

け世よふと夕のやとあゆむ 原の門たむく政とよむとあゆむ

持政ゆくりのよやうなれはるきのけふとあゆむとあゆむ

中にかよふよありてとるこゝろありし

弄 看てしやうのふとあよむいへたけのさるうとあゆむ

いほより後のさういふあゆしゆあゆむ 今いふうとあゆむ

命うとあゆむしとあゆむの積徳のゆへ

ふりいともあゆむし

ふりいともあゆむしとあゆむしとあゆむしとあゆむし

心 後後よむ書きたるはつとあゆむしとあゆむしとあゆむしと

あゆむしとあゆむしとあゆむしとあゆむしとあゆむしと

あゆむしとあゆむしとあゆむしとあゆむしとあゆむしと

あゆむしとあゆむしとあゆむしとあゆむしとあゆむしと

あゆむしとあゆむしとあゆむしとあゆむしとあゆむしと

あゆむしとあゆむしとあゆむしとあゆむしとあゆむしと

あゆむしとあゆむしとあゆむしとあゆむしとあゆむしと

あゆむしとあゆむしとあゆむしとあゆむしとあゆむしと

あゆむしとあゆむしとあゆむしとあゆむしとあゆむしと

あゆむしとあゆむしと

[Faint, illegible handwriting on the left page]

[Faint, illegible handwriting on the right page]

